

薬師寺の建立と薬師経

薬師寺まほろば塾 塾長

令和三年六月法話 薬師寺管主 加藤朝胤

薬師寺の創建

天武九年（六八〇）十一月十二日の条

皇后が病気になるた。皇后のために誓願をたて、薬師寺を建立することとなり、百人の僧を得度させたところ、病気は平癒された。この日、罪人を赦免された。

『日本書紀 卷第二十九』

東方浄瑠璃浄土薬師瑠璃光如来（とうほうじょうりじょうどやくしるりこうによらい）

⑤ バイシヤジャ・グル

薬師如来が説かれている代表的な経典

『薬師瑠璃光如来本願功德経』（薬師経） 永徽元年（六五〇）玄奘訳

『薬師瑠璃光七佛本願功德経』（七佛薬師経）景竜元年（七〇七）義浄訳

建武く永昌年間（三一七く三二二年）帛尸梨密多羅訳

大明元年（四五七）慧簡訳

大業十一年（六一五）達磨笈多訳

『薬師瑠璃光如来本願功德経』

薬師如来は東方浄瑠璃世界（瑠璃光浄土）の教主

薬師菩薩として修行の時、十二大願を發す

衆生の疾病を治癒して寿命を延べ、災禍を消去し、衣食などを満足せしめ、佛行を行じて無上菩提の妙果を証らしめんと誓い佛と成る

瑠璃光を以て衆生の病苦を救い、無明の病を直す法薬を与える医薬の佛
現世利益信仰を集める

像 容

立像・坐像 印相は右手を施無畏（せむい）印、左手を与願（よがん）印、左手に薬壺（やつこ）を持つ

薬師寺金堂薬師如来 唐招提寺金堂薬師如来は薬壺を持たない

『薬師如来念誦儀軌』不空訳の伝来以降に薬壺を持つ像が造られるようになった
日光菩薩・月光菩薩を脇侍とした薬師三尊像、十二神将像を安置する

薬師如来の光背は、七体または六体像容があるが、七佛薬師とその化身佛

薬師十二大願

- ① 光明普照（自らの光で三千世界を照らし、あまねく衆生を悟りに導く）
- ② 随意成弁（佛教七宝の一つである瑠璃の光を通じて佛性を目覚めさせる）
- ③ 施無尽佛（佛性を持つ者たちが、悟りを得るために欲するあらゆる物品を施す）
- ④ 安心大乘（世の外道を正し、衆生を佛道へと導く）
- ⑤ 具戒清浄（戒律を破ってしまった者をも戒律を守れるよう援ける）
- ⑥ 諸根具足（生まれつきの障碍・病氣・身体的苦痛を癒やす）
- ⑦ 除病安楽（困窮や苦悩を除き払えるよう援ける）
- ⑧ 転女得佛（成佛するために男性への転生を望む女性を援ける）
- ⑨ 安心正見（一切の精神的苦痛や煩惱を浄化できるよう援ける）
- ⑩ 苦惱解脱（重圧に苦しむ衆生が解き放たれるべく援ける）
- ⑪ 飲食安楽（著しい餓えと渇きに晒された衆生の苦しみを取り除く）
- ⑫ 美衣満足（困窮して寒さや虫刺されに悩まされる衆生に衣類を施す）

七佛薬師

『薬師瑠璃光七佛本願功德経』（七佛薬師経）義浄訳『薬師如来本願経』達磨笈多訳
薬師如来を主体とした七尊の佛の本願と佛国土が説かれている

八〜九世紀には七佛薬師法が息災・安産をもたらすとして安産祈願が行われた

- ① 善名称吉祥王如来（ぜんみょうしょうきちじょうおうによらい）
- ② 宝月智嚴光音自在王如来（ほうがつちごんこうおんじざいおうによらい）
- ③ 金色宝光妙行成就王如来（こんじきほうこうみょうぎょうじょうじゅおうによらい）
- ④ 無憂最勝吉祥王如来（むうさいしゅうきちじょうおうによらい）
- ⑤ 法海雲雷音如来（ほうかいいうんらいおんによらい）
- ⑥ 法海勝慧遊戯神通如来（ほうかいしゅうえゆげじんつうによらい）
- ⑦ 薬師瑠璃光如来（やくしるりこうによらい）

薬師如来の真言

大 咒

ノウボウ バギヤバテイ バイセイジャ クロ ベイルリヤ ハラバ アラジ
ヤヤ タタギヤタヤ アラカテイ サンミヤクサンボダヤ タニヤタ オン
バイセイゼイ バイセイゼイ バイセイジャサンポリギヤテイ ソワカ

小 咒

オン コロコロ センダリ マトウギ ソワカ